

令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

令和4年1月29日

イラスト:イクタケ マコト

## これから求められる学習

決まった答えを学ぶ学習だけでなく、  
広い視野で多面的、多角的に、そして教科の枠をこえて事象を捉え、  
よりよい解を探り、自ら行動していく資質・能力の育成



これから求められる学習

決まった答えを学ぶ学習だけでなく、  
広い視野で多面的、多角的に、そして教科の枠をこえて事象を捉え、  
よりよい解を探り、自ら行動していく資質・能力の育成

新教科カリキュラム



効果的な指導方法

これから求められる学習

決まった答えを学ぶ学習だけでなく、  
広い視野で多面的、多角的に、そして教科の枠をこえて事象を捉え、  
よりよい解を探り、自ら行動していく資質・能力の育成



## 新教科カリキュラム



## 効果的な指導方法

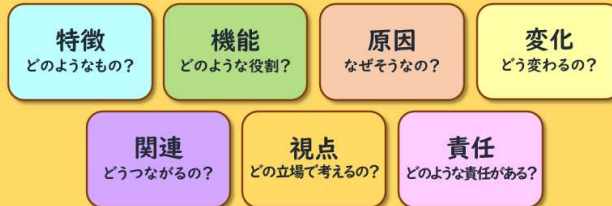
教科の枠を超えた

### 6つの領域



教科の枠を超えた

### 対象を捉える考え方



週6時間の設定

これから求められる学習

決まった答えを学ぶ学習だけでなく、  
広い視野で多面的、多角的に、そして教科の枠をこえて事象を捉え、  
よりよい解を探り、自ら行動していく資質・能力の育成

## 新教科カリキュラム

教科の枠を超えた

### 6つの領域



教科の枠を超えた

### 対象を捉える考え方



週6時間の設定

## 効果的な指導方法

「探究のテーマ」を活用した  
個の探究活動の充実



令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

## 1. 探究科の実際

- (1) 「探究科」創設の理由
- (2) 「探究科」で育成する資質・能力
- (3) 「探究科」カリキュラムの構成
  - ①年間計画
  - ②時数
- (4) 「探究科」単元の実際
  - ①単元の構想
  - ②単元の展開

## 2. 研究開発の成果と課題

- (1) 資質・能力の育成について
- (2) 探究科カリキュラムの評価

令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

## 1. 探究科の実際

- (1) 「探究科」創設の理由
- (2) 「探究科」で育成する資質・能力
- (3) 「探究科」カリキュラムの構成
  - ①年間計画
  - ②時数
- (4) 「探究科」単元の実際
  - ①単元の構想
  - ②単元の展開

## 2. 研究開発の成果と課題

- (1) 資質・能力の育成について
- (2) 探究科カリキュラムの評価

## 1. (1) 「探究科」創設の理由

多様で変化の激しい予測困難な時代では、  
一つの決まった見方、  
決まった答えを学ぶのではなく、  
広い視野で捉え、よりよい答えを作り、  
自ら行動していく力や態度が大切になります。  
総合的な学習の時間は、ますます重要になります。

### 予測困難な時代の到来

- ・グローバル化
- ・絶え間ない技術革新
- ・社会構造の急速な変化

不安定

不確実

VUCAの  
時代

複雑

曖昧

求められる  
新たな力

感性を働かせ、  
変化に対して主体的に向き合い、  
どのように社会や人生をよりよくするのか  
という目的を考え出す

自らの可能性を発揮し、  
多様な他者と協働しながら、  
答えのない課題に対して、  
納得解を見いだす

一人一人が  
未来の創り手となる



# 1. (1) 「探究科」創設の理由

多様で変化の激しい予測困難な時代では、一つの決まった見方、決まった答えを学ぶのではなく、広い視野で捉え、よりよい答えを作り、自ら行動していく力や態度が大切になります。総合的な学習の時間は、ますます重要になります。



## 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

## 予測困難な時代の到来

- ・グローバル化
- ・絶え間ない技術革新
- ・社会構造の急速な変化

不安定

不確実

VUCAの時代

複雑

曖昧

求められる  
新たな力

感性を働かせ、変化に対して主体的に向き合い、どのように社会や人生をよりよくするのかという目的を考え出す

自らの可能性を発揮し、多様な他者と協働しながら、答えのない課題に対して、納得解を見いだす

一人一人が  
未来の創り手となる

## 1. (1) 「探究科」創設の理由

より充実させるための取り組みとして、

### 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

## 1. (1) 「探究科」創設の理由

より充実させるための取り組みとして、

① 学習の対象をより多様に

の、3つの方向性を設定しました。

総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

## 1. (1) 「探究科」創設の理由

より充実させるための取り組みとして、

① 学習の対象をより多様に

② 育む考え方をより具体的に

の、3つの方向性を設定しました。

### 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

## 1. (1) 「探究科」創設の理由

より充実させるための取り組みとして、

①学習の対象をより多様に

②育む考え方をより具体的に

③より個を重視する

の、3つの方向性を設定しました。

### 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

## 1. (1) 「探究科」創設の理由 ①6つの領域

### ①学習の対象をより多様に

#### 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

## ①学習の対象をより多様に



地域の自然や文化を対象とする学習だけでなく

### 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!



## ①学習の対象をより多様に

教科の  
枠を超えて  
探究し、

人の  
在り方

場所と  
歴史

創造  
表現

自然と  
科学

社会と  
暮らし

地球  
共生

6つの領域は、教科等の枠をこえた  
学習対象の範囲をしめす。

### 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!





1. (1) 「探究科」創設の理由 ②7つの「対象を捉える考え方」

②育む考え方をより具体的に

総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

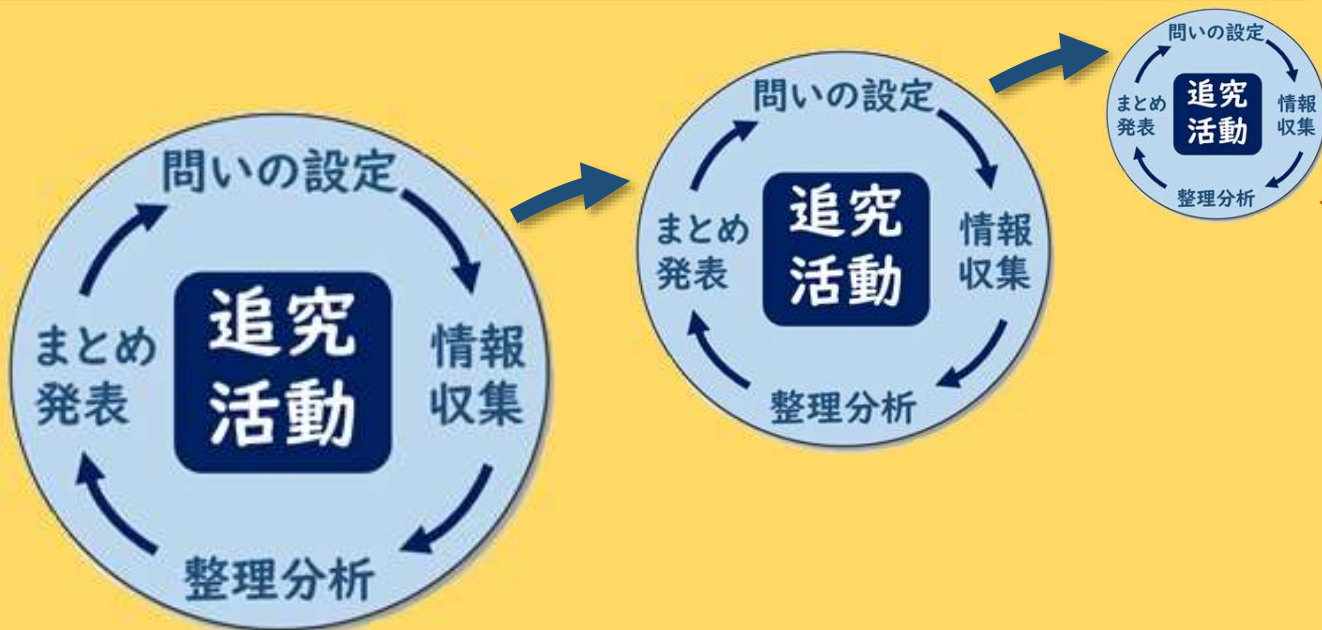
探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

1. (1) 「探究科」創設の理由 ②7つの「対象を捉える考え方」

②育む考え方をより具体的に



探究の過程を経由して学習を進めていく際に、  
児童が主体的に活用する「考え方」を設定します。

総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

# 1. (1) 「探究科」創設の理由 ②7つの「対象を捉える考え方」

## ②育む考え方をより具体的に

教科の枠を超えた  
7つの「対象を捉える考え方」を指導します。



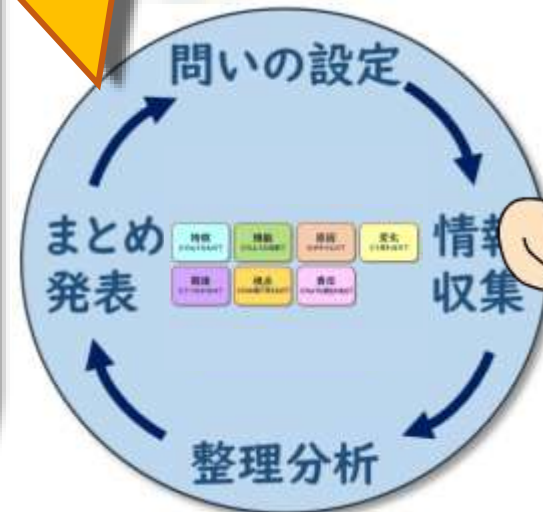
### 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!



どう変わって  
いくのかな？

なぜ〇〇  
なのだろう？



# 7つの「対象を捉える考え方」

探究を発展させ深めるための問いを生む、児童の探究を支える考え方

**特徴**

どのようなもの？

**機能**

どのような役割？

**原因**

なぜそうなの？

**変化**

どう変わるの？

**関連**

どうつながるの？

**視点**

どの立場で考えるの？

**責任**

どのような責任がある？

- ・目の前の対象に対して追究活動を始めるときに、児童が問いを生むために活用できる考え方です。
- ・この7つの考え方によって、児童は探究を発展させたり、深めたりすることができます。

# 7つの考え方を使って探究的に学ぶ姿

・この4つの探究の過程を、発展的に繰り返します。  
・その際、7つの考え方を使って、様々な課題を自ら設定していきます。

課題の設定

まとめ・表現

特徴  
どのようなもの？

機能  
どのような役割？

原因  
なぜそうなの？

変化  
どう変わるの？

関連  
どうつながるの？

視点  
どの立場で考えるの？

情報の収集

責任  
どのような責任がある？

整理・分析



# 7つの考え方を使って探究的に学ぶ姿

・この4つの探究の過程を、発展的に繰り返します。  
・その際、7つの考え方を使って、様々な課題を自ら設定していきます。

課題の設定

まとめ・表現

特徴  
どのようなもの？

機能  
どのような役割？

原因  
なぜそうなの？

変化  
どう変わるの？

関連  
どうつながるの？

視点  
どの立場で考えるの？

情報の収集

どの学年、  
どの領域でも  
使えるよさ！

責任  
どのような責任がある？

整理・分析





## ③より個を重視する

### 総合的な学習の時間

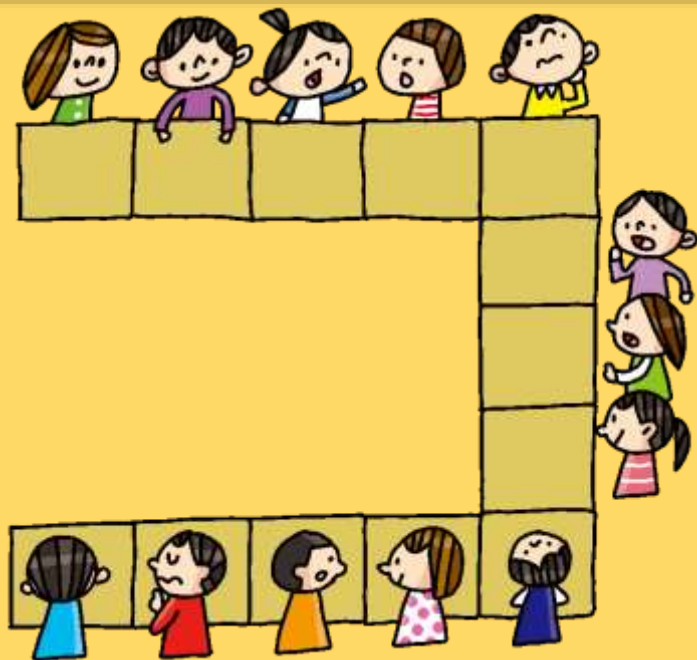
教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

## ③より個を重視する



学級やグループで、  
共通の問いや活動に取り組むだけでなく…、

## 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!



## ③より個を重視する



一人一人の子どもに、  
学びの主導権と選択権を保障します。

児童一人一人が、  
自身の学びを  
自分でデザインし、  
自分で取り組む。

## 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!



教師は、探究する児童を  
支援する役割として  
関わる。

# 1. (1) 「探究科」創設の理由

①学習の対象を  
より多様に

②育む考え方を  
より具体的に

③より個を  
重視する



これらの取り組みによって、**児童一人一人が**、  
・様々な対象と関わり、  
・自分で問いを見いだして探究を進め、  
・自分なりに考える機会を得る。

そうすることで…

より充実!

総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

一人一人が  
未来の創り手となる

# 1. (1) 「探究科」創設の理由

①学習の対象を  
より多様に

②育む考え方を  
より具体的に

③より個を  
重視する



一人一人が  
未来の創り手となる

そのためには…、

## 総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

# 1. (1) 「探究科」創設の理由

①学習の対象を  
より多様に

②育む考え方を  
より具体的に

③より個を  
重視する



一人一人が  
未来の創り手となる

そのためには…、

教科の枠を超えた

6つの領域



総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

# 1. (1) 「探究科」創設の理由

①学習の対象を  
より多様に

②育む考え方を  
より具体的に

③より個を  
重視する



一人一人が  
未来の創り手となる

そのためには…、

教科の枠を超えた

6つの領域



教科の枠を超えた

対象を捉える考え方



総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!



# 1. (1) 「探究科」創設の理由

①学習の対象を  
より多様に

②育む考え方を  
より具体的に

③より個を  
重視する



一人一人が  
未来の創り手となる

そのためには…、

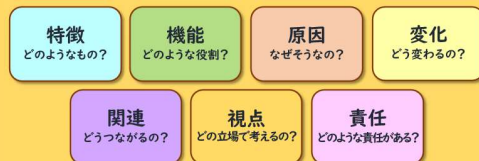
教科の枠を超えた

6つの領域



教科の枠を超えた

対象を捉える考え方 多くの時数



が必要!

総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

# 1. (1) 「探究科」創設の理由

①学習の対象を  
より多様に

②育む考え方を  
より具体的に

③より個を  
重視する



一人一人が  
未来の創り手となる

そのためには…、

教科の枠を超えた

6つの領域



教科の枠を超えた

対象を捉える考え方 多くの時数



が必要!

総合的な学習の時間

教科等の枠を超えて  
概念を形成

探究的に  
捉えたり考えたりして

よりよく課題を解決し  
自己の生き方を考える

より充実!

新教科

「探究科」の  
創設

令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

## 1. 探究科の実際

- (1) 「探究科」創設の理由
- (2) 「探究科」で育成する資質・能力
- (3) 「探究科」カリキュラムの構成
  - ①年間計画
  - ②時数
- (4) 「探究科」単元の実際
  - ①単元の構想
  - ②単元の展開

## 2. 研究開発の成果と課題

- (1) 資質・能力の育成について
- (2) 探究科カリキュラムの評価



## 探究科の目標

グローバルで探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的に探究する学習活動を通して、自分、社会、自然やそれら相互のかかわりに対し、課題を解決し、自己の価値観を創造し、未来に向けて主体的に行動していくための資質・能力を次のように育成することを目指す。

## 探究科の目標と育成する資質・能力

グローバルで探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的に探究する学習活動を通して、自分、社会、自然やそれら相互のかかわりに対し、課題を解決し、自己の価値観を創造し、未来に向けて主体的に行動していくための資質・能力を次のように育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、自分・社会・自然やそれら相互のかかわりにおける課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、自己との関わりを通して理解できるようにする。
- (2) 探究的な学習を通して、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの問題を解決する力や対象を捉えて考える力を身に付け、意味を形成できるようにする。
- (3) 探究的な学習に、自らの学びをコントロールし、多様な他者と学び合いながら取り組むとともに、実社会・実生活に影響を与える責任を感じながら、自己の価値観への自覚と未来に向けて積極的に行動していく態度を養う。

令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

## 1. 探究科の実際

- (1) 「探究科」創設の理由
- (2) 「探究科」で育成する資質・能力
- (3) 「探究科」カリキュラムの構成
  - ①年間計画
  - ②時数
- (4) 「探究科」単元の実際
  - ①単元の構想
  - ②単元の展開

## 2. 研究開発の成果と課題

- (1) 資質・能力の育成について
- (2) 探究科カリキュラムの評価

# 探究科の年間計画

どの学年でも、6領域全ての単元を一つずつ実施します。  
(つまり、年間6単元、6年間で36単元を実施します。)

例) 年間6単元の「探究科」年間計画 【200時間】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	 <p><b>C</b> 創造表現 30h</p>	 <p><b>B</b> 場所と歴史 35h</p>				 <p><b>E</b> 社会と暮らし 40h</p>		 <p><b>D</b> 自然と科学 35h</p>	 <p><b>F</b> 地球共生 30h</p>	 <p><b>A</b> 人の在り方 30h</p>		

# 探究科の年間計画 (令和3年度)

学年	時数	1学期前半	1学期後半	2学期前半	2学期後半	3学期前半	3学期後半
1年生	200	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h	F 地球共生 40h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h	A 人の在り方 30h
2年生	210	C 創造表現 35h	F 地球共生 35h	D 自然と科学 40h	B 場所と歴史 40h	E 社会と暮らし 30h	A 人の在り方 30h
3年生	200	F 地球共生 35h	B 場所と歴史 35h	A 人の在り方 35h	C 創造表現 35h	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h
4年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	C 創造表現 40h	D 自然と科学 40h	F 地球共生 30h	E 社会と暮らし 30h
5年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	D 自然と科学 40h	E 社会と暮らし 40h	F 地球共生 30h	C 創造表現 30h
6年生	210	A 人の在り方 30h	E 社会と暮らし 40h	D 自然と科学 35h	F 地球共生 35h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h

# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ①年間計画

探究科の年間計画 (令和3年度)

学年	時数	1学期前半	1学期後半	2学期前半	2学期後半	3学期前半	3学期後半
1年生	200	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h	F 地球共生 40h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h	A 人の在り方 30h
2年生	210	C 創造表現 35h	F 地球共生 35h	D 自然と科学 40h	B 場所と歴史 40h	E 社会と暮らし 30h	A 人の在り方 30h
3年生	200	F 地球共生 35h	B 場所と歴史 35h	A 人の在り方 35h	C 創造表現 35h	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h
4年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	C 創造表現 40h	D 自然と科学 40h	F 地球共生 30h	E 社会と暮らし 30h
5年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	D 自然と科学 40h	E 社会と暮らし 40h	F 地球共生 30h	C 創造表現 30h
6年生	210	A 人の在り方 30h	E 社会と暮らし 40h	D 自然と科学 35h	F 地球共生 35h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h

6つ領域が、各学年1単元ずつ配置されていることで、

各領域で扱う課題についての

- ・ 概念の形成
- ・ 価値を生み出すこと
- ・ 未来に向けての行動

を、系統的に育むことができます。

## A領域 人の在り方

自己の本質  
人間である意味  
健全さ等

どの領域の単元であっても毎年実施されることにより、多様な領域における資質・能力が、系統的に育まれます。

# 探究科の年間計画

「対象を捉える考え方」についても、  
バランスよく指導できるように計画

視点

原因

特徴

機能

関連

責任

変化

# 探究科の年間計画

各単元で、重点的に扱う「対象を捉える考え方」は、2～3の考え方

例) 年間6単元の「探究科」年間計画 【210時間】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	C 創造表現 35h		F 地球共生 35h		D 自然と科学 40h		B 場所と歴史 40h		E 社会と暮らし 30h		A 人の在り方 30h	



# 探究科の年間計画

各単元で、重点的に扱う「対象を捉える考え方」は、2～3の考え方

例) 年間6単元の「探究科」年間計画 【210時間】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	C 創造表現 35h		F 地球共生 35h		D 自然と科学 40h			B 場所と歴史 40h		E 社会と暮らし 30h		A 人の在り方 30h

視点

変化

責任

# 探究科の年間計画

各単元で、重点的に扱う「対象を捉える考え方」は、2～3の考え方

例) 年間6単元の「探究科」年間計画 【210時間】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	<b>C</b> 創造表現 35h		<b>F</b> 地球共生 35h		<b>D</b> 自然と科学 40h			<b>B</b> 場所と歴史 40h		<b>E</b> 社会と暮らし 30h		<b>A</b> 人の在り方 30h
	視点		特徴		機能			特徴		特徴		特徴
	変化		原因		原因			視点		機能		関連
	責任		責任		関連			責任		責任		変化

令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

## 1. 探究科の実際

- (1) 「探究科」創設の理由
- (2) 「探究科」で育成する資質・能力
- (3) 「探究科」カリキュラムの構成
  - ①年間計画
  - ②時数
- (4) 「探究科」単元の実際
  - ①単元の構想
  - ②単元の展開

## 2. 研究開発の成果と課題

- (1) 資質・能力の育成について
- (2) 探究科カリキュラムの評価

## 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

探究科の年間計画 (令和3年度)

学年	時数	1学期前半	1学期後半	2学期前半	2学期後半	3学期前半	3学期後半
1年生	200	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h	F 地球共生 40h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h	A 人の在り方 30h
2年生	210	C 創造表現 35h	F 地球共生 35h	D 自然と科学 40h	B 場所と歴史 40h	E 社会と暮らし 30h	A 人の在り方 30h
3年生	200	F 地球共生 35h	B 場所と歴史 35h	A 人の在り方 35h	C 創造表現 35h	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h
4年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	C 創造表現 40h	D 自然と科学 40h	F 地球共生 30h	E 社会と暮らし 30h
5年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	D 自然と科学 40h	E 社会と暮らし 40h	F 地球共生 30h	C 創造表現 30h
6年生	210	A 人の在り方 30h	E 社会と暮らし 40h	D 自然と科学 35h	F 地球共生 35h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h

各学年  
年間200～210時間

では、これだけの時間数を、  
どうやって生み出すのでしょうか。

## 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

探究科の年間計画 (令和3年度)

学年	時数	1学期前半	1学期後半	2学期前半	2学期後半	3学期前半	3学期後半
1年生	200	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h	F 地球共生 40h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h	A 人の在り方 30h
2年生	210	C 創造表現 35h	F 地球共生 35h	D 自然と科学 40h	B 場所と歴史 40h	E 社会と暮らし 30h	A 人の在り方 30h
3年生	200	F 地球共生 35h	B 場所と歴史 35h	A 人の在り方 35h	C 創造表現 35h	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h
4年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	C 創造表現 40h	D 自然と科学 40h	F 地球共生 30h	E 社会と暮らし 30h
5年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	D 自然と科学 40h	E 社会と暮らし 40h	F 地球共生 30h	C 創造表現 30h
6年生	210	A 人の在り方 30h	E 社会と暮らし 40h	D 自然と科学 35h	F 地球共生 35h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h

各学年  
年間200～210時間

では、これだけの時間数を、  
どうやって生み出すのでしょうか。

取り組みの基本は、  
既存教科の時数削減です。

# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

探究科の年間計画 (令和3年度)

学年	時数	1学期前半	1学期後半	2学期前半	2学期後半	3学期前半	3学期後半
1年生	200	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h	F 地球共生 40h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h	A 人の在り方 30h
2年生	210	C 創造表現 35h	F 地球共生 35h	D 自然と科学 40h	B 場所と歴史 40h	E 社会と暮らし 30h	A 人の在り方 30h
3年生	200	F 地球共生 35h	B 場所と歴史 35h	A 人の在り方 35h	C 創造表現 35h	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h
4年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	C 創造表現 40h	D 自然と科学 40h	F 地球共生 30h	E 社会と暮らし 30h
5年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	D 自然と科学 40h	E 社会と暮らし 40h	F 地球共生 30h	C 創造表現 30h
6年生	210	A 人の在り方 30h	E 社会と暮らし 40h	D 自然と科学 35h	F 地球共生 35h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h

各学年  
年間200～210時間

では、これだけの時間数を、  
どうやって生み出すのでしょうか。

取り組みの基本は、  
既存教科の時数削減です。

・ 重複内容の統合

# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

探究科の年間計画 (令和3年度)

学年	時数	1学期前半	1学期後半	2学期前半	2学期後半	3学期前半	3学期後半
1年生	200	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h	F 地球共生 40h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h	A 人の在り方 30h
2年生	210	C 創造表現 35h	F 地球共生 35h	D 自然と科学 40h	B 場所と歴史 40h	E 社会と暮らし 30h	A 人の在り方 30h
3年生	200	F 地球共生 35h	B 場所と歴史 35h	A 人の在り方 35h	C 創造表現 35h	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h
4年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	C 創造表現 40h	D 自然と科学 40h	F 地球共生 30h	E 社会と暮らし 30h
5年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	D 自然と科学 40h	E 社会と暮らし 40h	F 地球共生 30h	C 創造表現 30h
6年生	210	A 人の在り方 30h	E 社会と暮らし 40h	D 自然と科学 35h	F 地球共生 35h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h

各学年  
年間200～210時間

では、これだけの時間数を、  
どうやって生み出すのでしょうか。

取り組みの基本は、  
既存教科の時数削減です。

- ・ 重複内容の統合

- ・ 指導内容の重点化



# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

探究科の年間計画 (令和3年度)

学年	時数	1学期前半	1学期後半	2学期前半	2学期後半	3学期前半	3学期後半
1年生	200	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h	F 地球共生 40h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h	A 人の在り方 30h
2年生	210	C 創造表現 35h	F 地球共生 35h	D 自然と科学 40h	B 場所と歴史 40h	E 社会と暮らし 30h	A 人の在り方 30h
3年生	200	F 地球共生 35h	B 場所と歴史 35h	A 人の在り方 35h	C 創造表現 35h	E 社会と暮らし 30h	D 自然と科学 30h
4年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	C 創造表現 40h	D 自然と科学 40h	F 地球共生 30h	E 社会と暮らし 30h
5年生	210	B 場所と歴史 40h	A 人の在り方 30h	D 自然と科学 40h	E 社会と暮らし 40h	F 地球共生 30h	C 創造表現 30h
6年生	210	A 人の在り方 30h	E 社会と暮らし 40h	D 自然と科学 35h	F 地球共生 35h	C 創造表現 40h	B 場所と歴史 30h

各学年  
年間200～210時間

では、これだけの時間数を、  
どうやって生み出すのでしょうか。

取り組みの基本は、  
既存教科の時数削減です。

- ・ 重複内容の統合

- ・ 指導内容の重点化

- ・ 国語科「書くこと」「話すこと聞くこと」単元を、「探究科」の中の活動を通して指導する。

によって、指導時間数を削減します。

# 1. (3)「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

各教科がどの程度削減するか、  
5年生を例に示します。

5年生の場合



年間の総時数は  
1015時間です。

【削減】指導内容はほとんど変えずに、  
重複内容の統合や指導の重点化を行い、  
指導時間数を削減する。

# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

## 5年生の場合



【削減】指導内容はほとんど変えずに、重複内容の統合や指導の重点化を行い、指導時間数を削減する。

国語科 については、

- ・ 「書くこと」
  - ・ 「話すこと聞くこと」
- を中心とした内容を、「探究科」の中で指導することとし、

年間70時間程度の内容を「探究科」へ移しました。

1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

# 国語科の時間数削減の実際

5年生の場合

「話すこと聞くこと」  
「書くこと」の内容を、  
探究科の中で指導する。

「探究科」導入前の5年生 国語科年間計画

【175時間】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	話すこと聞くこと 7h	知識・技能 11h			話すこと聞くこと 8h	知識・技能 12h			話す聞く 6h	知・技 8h		
	書くこと 19h				書くこと 15h	書写 12h			書くこと 9h	写 7h		
	読むこと 16h		書写 11h			読むこと 20h			読むこと 14h			



# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

「話すこと聞くこと」  
「書くこと」の内容を、  
探究科の中で指導する。

## 国語科の時間数削減の実際

5年生の場合

「探究科」導入前の5年生 国語科年間計画

【175時間】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	話すこと聞くこと 7h	知識・技能 11h				話すこと聞くこと 8h	知識・技能 12h			話す聞く 6h	知・技 8h	
	書くこと 19h					書くこと 15h		書写 12h		書くこと 9h		写 7h
	読むこと 16h		書写 11h			読むこと 20h				読むこと 14h		



「探究科」導入後の5年生 国語科年間計画

【105時間】 70時間削減

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	話1h	知識・技能 8h				知識・技能 11h				知・技 8h	写 5h	8h 削減
	書く 5h		書写 10h	27h 削減		書 4h	書写 10h	35h 削減		書くこと 9h		8h 削減
	読むこと 13h					読むこと 7h				読むこと 14h		

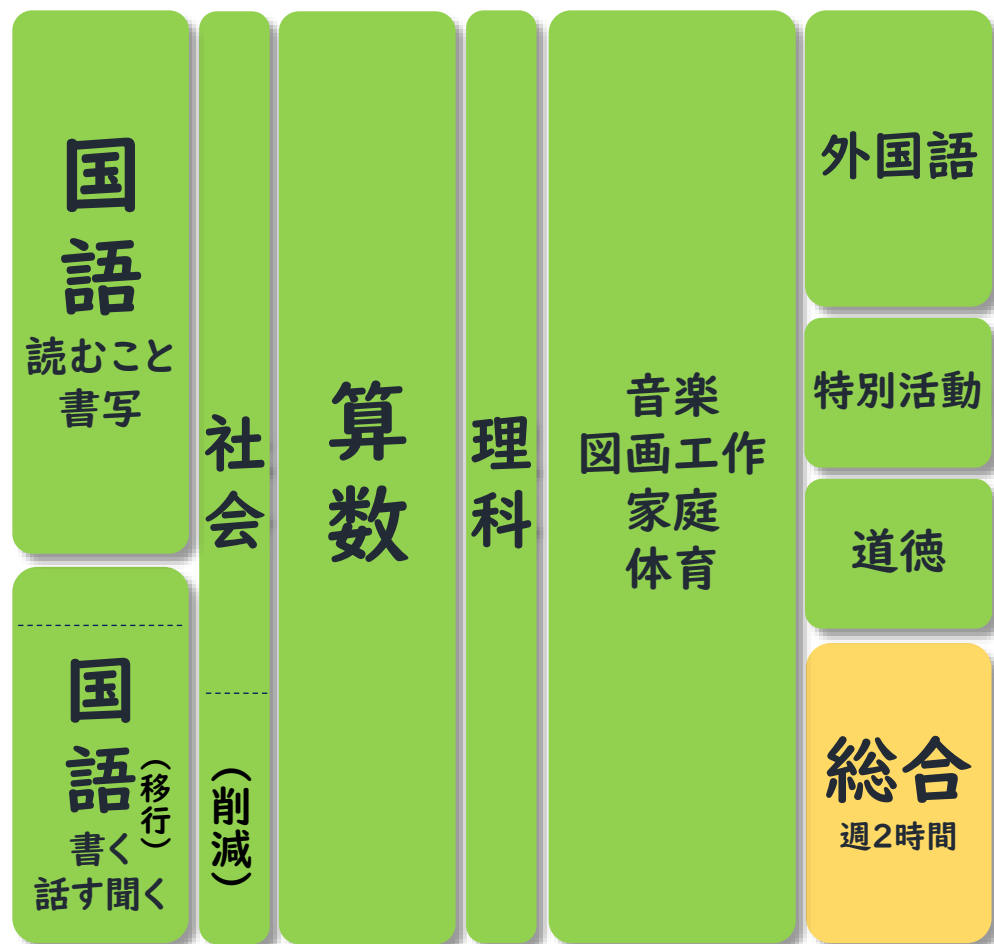
- ・図書館の使い方①
- ・インタビュー内容の報告⑥
- ・目的の応じた引用②
- ・調べたことの報告文⑩ を「探究科」の中で指導

- ・対話と討論②
- ・新聞の構成と記事の比較③
- ・立場を明確にした話し合い⑥
- ・統計資料の読み方と活用⑪
- ・伝記と意見文⑪ を「探究科」の中で指導

- ・提案するスピーチ⑥
- を「探究科」の中で指導

# 1. (3)「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

## 5年生の場合



社会科 については、

指導内容の重点化や  
指導方法の工夫を行い

年間25時間程度の削減を  
行いました。

【削減】指導内容はほとんど変えずに、  
重複内容の統合や指導の重点化を行い、  
指導時間数を削減する。

# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

## 社会科の時間数削減の実際

5年生の場合

「類似内容の部分的削除」  
「内容の統合」  
を行い、時間数を削減します。

「探究科」導入前の5年生 社会科年間計画

【100時間】





1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

# 社会科の時間数削減の実際

5年生の場合

「類似内容の部分的削除」  
「内容の統合」  
を行い、時間数を削減します。

「探究科」導入前の5年生 社会科年間計画

【100時間】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	国土の様子 20h		農業・水産業 食糧生産 25h			工業生産 21h		産業と情報 報道 メディアリテラシー 10h	産業 と情報 情報活用産業 6h		自然環境 18h	

-5h

-7h

-6h

-7h



「探究科」導入後の5年生 社会科年間計画

【75時間】 25時間削減

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	国土の様子 15h	5h 削減	農業 食糧生産 18h	7h 削減		工業生産 21h		産業と情報 報道 メディアリテラシー 10h	6h 削減		自然環境 11h	7h 削減

「低い土地」「高い土地」  
「あたたかい土地」  
「寒い土地」  
の中から一つだけを扱う

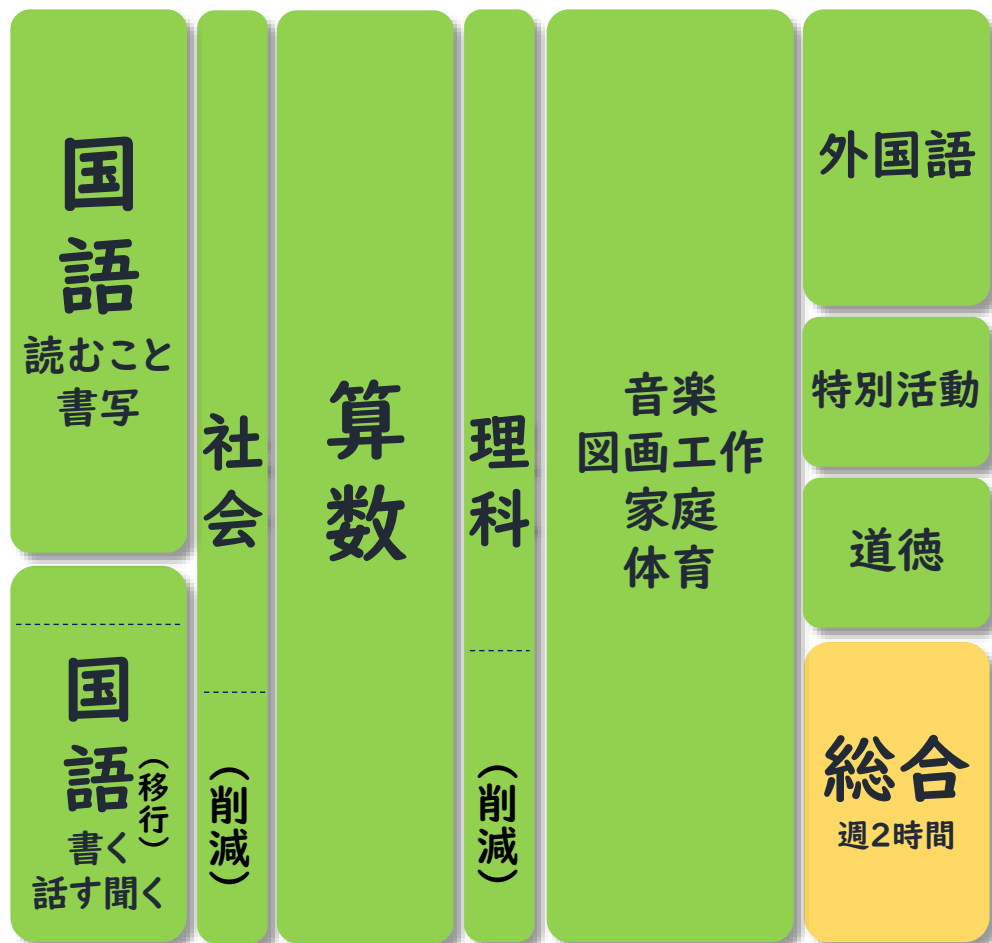
水産業を削除

「産業と情報」を削除

「自然災害」  
「森林・林業」  
「公害の防止」  
を統合して扱う

# 1. (3)「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

## 5年生の場合



理科 については、  
指導内容の重点化や  
指導方法の工夫を行い、  
年間35時間程度の削減を  
行いました。

【削減】指導内容はほとんど変えずに、  
重複内容の統合や指導の重点化を行い、  
指導時間数を削減する。

1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

# 理科の時間数削減の実際

5年生の場合

「導入の簡略化」  
 「発展的な活動の削除」  
 「内容の統合」  
 を行い、時間数を削減します。

「探究科」導入前の5年生 理科年間計画

【89 (105) 時間】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	雨と春 天気の変化 7 (8) h	植物の 発芽と成長 15 (17) h	メダカ 5 (6) h	天気 台風 3 (4) h	花のつくり 花から実 6 (8) h	ふりこ 9 (11) h	流れる水 と土地 11 (13) h	電流が 生み出す力 12 (13) h	人の たん生 6 (7) h	ものの とけ方 15 (18) h		
	-4h	-7h	-2h	-1h	-2h	-5h	-3h	-3h	-4h	-4h		

1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

# 理科の時間数削減の実際

5年生の場合

「導入の簡略化」  
「発展的な活動の削除」  
「内容の統合」  
を行い、時間数を削減します。

「探究科」導入前の5年生 理科年間計画

【89 (105) 時間】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	雨と春 天気の変化 7 (8) h	植物の 発芽と成長 15 (17) h	メダカ 5 (6) h	天気 台風 3 (4) h	花のつくり 花から実 6 (8) h	ふりこ 9 (11) h	流れる水 と土地 11 (13) h	電流が 生み出す力 12 (13) h	人の たん生 6 (7) h	ものの とけ方 15 (18) h		
	-4h	-7h	-2h	-1h	-2h	-5h	-3h	-3h	-4h	-4h		

「探究科」導入後の5年生 理科年間計画

【70時間】 35時間削減

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	植物の発芽と成長 10h	メダカ 4h	人のたん生 3h	天気 雲 4h	天気 台風 3h	花のつくり花から実 6h	電流が生み出す力 10h	もののとけ方 14h	流れる水と土地 10h	ふりこ 6h		
					14h 削減				7h 削減			14h 削減

導入と問題づくりを統合して行う

観察や記録を授業時間外に行う

植物、メダカ、人を統合して扱う

発展的な活動は「探究科」の中で扱う

・実生活の中から問題を見つける場面を簡略化  
・発展的な活動を省略

# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

## 5年生の場合

国語 読むこと 書写	社会  (削減)	算数  (削減)	理科  (削減)	音楽 図画工作 家庭 体育  (削減)	外国語
国語 (移行) 書く 話す聞く					特別活動
					道徳 (削減)
					総合 週2時間

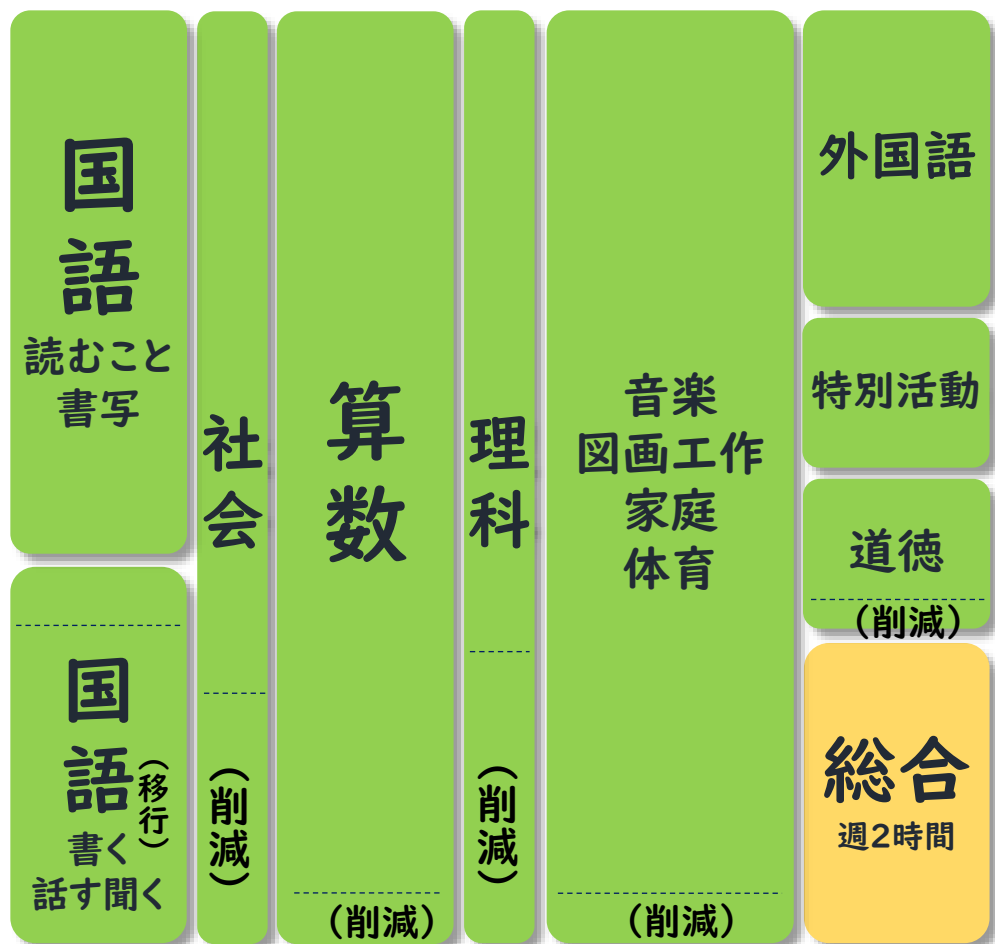
算数、音楽、図画工作、家庭、  
体育、道徳 については、

指導内容の重点化や  
指導方法の工夫を行い、  
各教科、年間5～10時間程度の  
削減を行いました。

【削減】指導内容はほとんど変えずに、  
重複内容の統合や指導の重点化を行い、  
指導時間数を削減する。

# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

5年生の場合

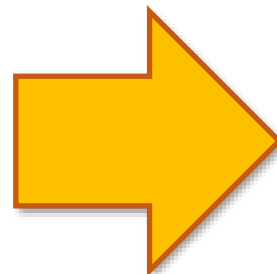
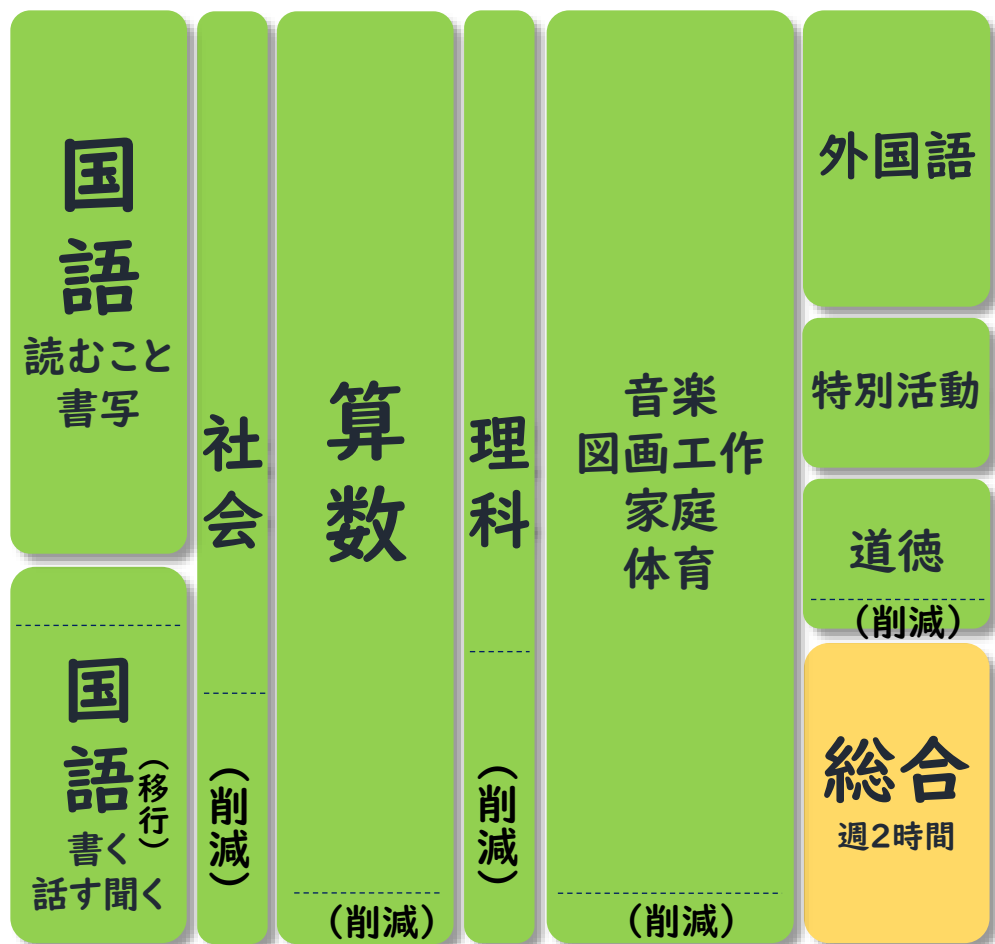


各教科の削減時数を合わせると、  
このようになります。

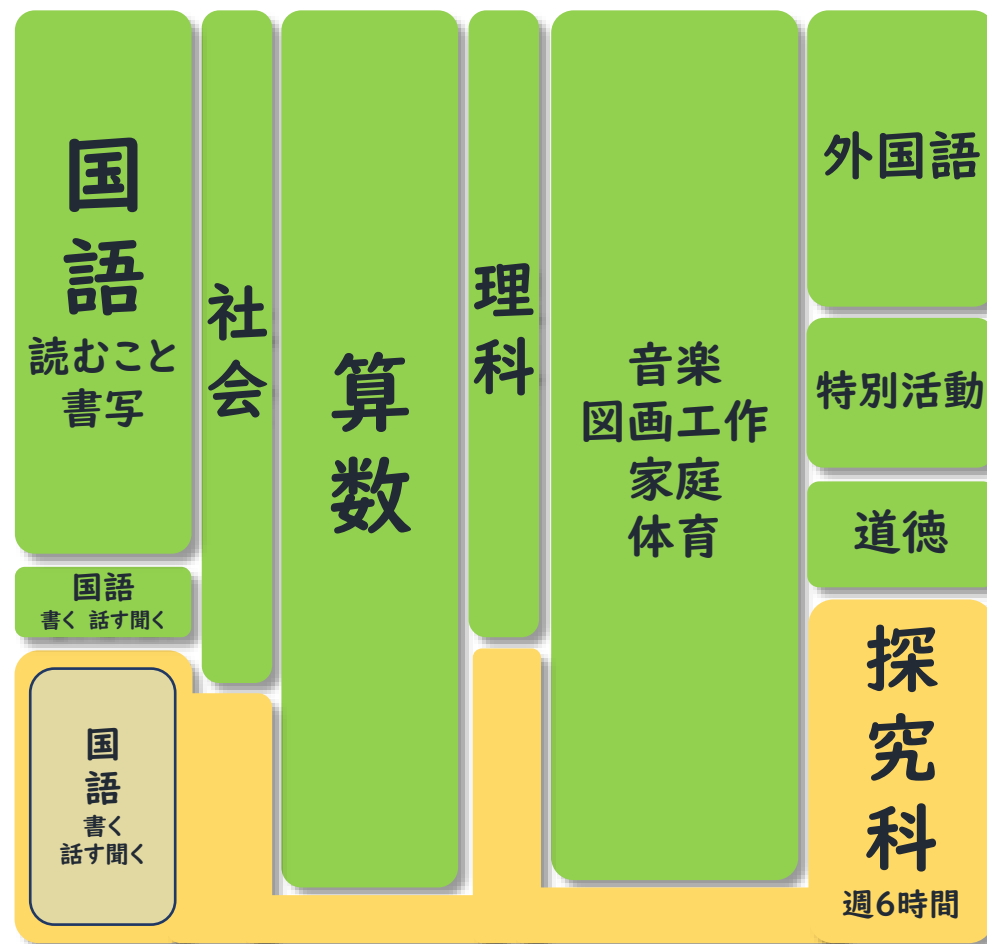
【削減】指導内容はほとんど変えずに、  
重複内容の統合や指導の重点化を行い、  
指導時間数を削減する。

# 1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

## 5年生の場合



各教科の削減時数を合わせると、このようになります。



【削減】指導内容はほとんど変えずに、重複内容の統合や指導の重点化を行い、指導時間数を削減する。

【国語科(書く、話す聞く)】その大部分(週2時間分)を、探究科の中の、実践的な題材を使って指導する。



1. (3) 「探究科」カリキュラムの構成 ②時数

# 「探究科」導入後の教育課程表（5年生の場合）

	各教科の授業時数										特別の教科である道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	新設教科	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語						
第5学年	105 (-70)	75 (-25)	175 (+0)	70 (-35)	/	50 (+0)	50 (+0)	59 (-1)	90 (+0)	70	26 (-9)	/	0 (-70)	35	210 (+210)	1015 (0)

・210時間（週6時間）以上の時間数を生み出すことができる。

令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

## 1. 探究科の実際

- (1) 「探究科」創設の理由
- (2) 「探究科」で育成する資質・能力
- (3) 「探究科」カリキュラムの構成
  - ①年間計画
  - ②時数
- (4) 「探究科」単元の実際
  - ①単元の構想
  - ②単元の展開

## 2. 研究開発の成果と課題

- (1) 資質・能力の育成について
- (2) 探究科カリキュラムの評価

## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

「探究科」の単元は、  
どのように  
作られるのでしょうか。

①単元の目標と  
「探究のテーマ」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

①単元の目標と  
「探究のテーマ」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

領域で扱う概念と  
児童が出会う対象から、  
単元の目標を設定します。

①関わる対象を  
より多様に

②育む考え方を  
より具体的に

③より個を  
重視する



一人一人が  
未来の創り手となる

そのためには…、

教科の枠を超えた

6つの領域



教科の枠を超えた

新たな指導事項



多くの時数



が必要！

①単元の目標と  
「探究のテーマ」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

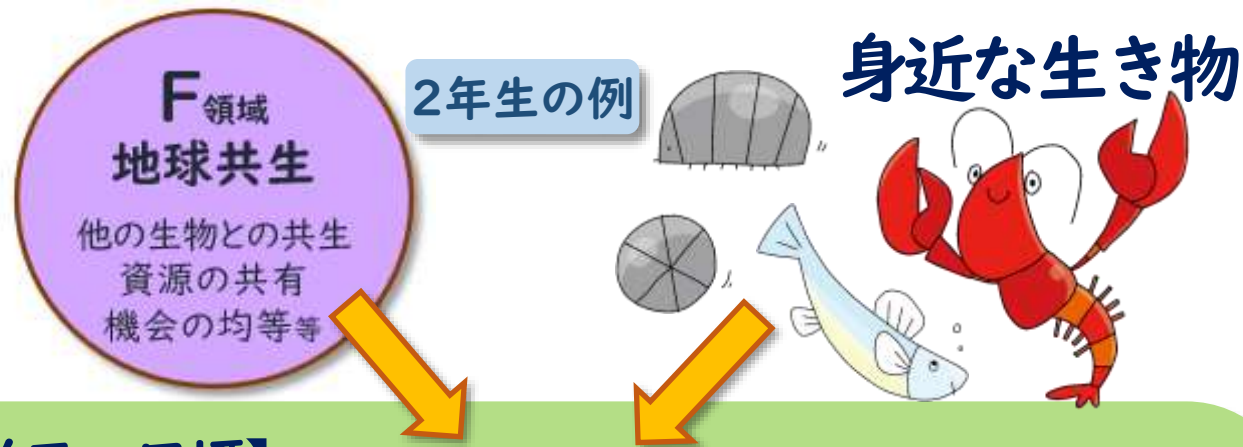
③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

領域で扱う概念と  
児童が出会う対象から、  
単元の目標を設定します。



## 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、  
生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす  
責任といった捉え方で考え、  
生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進され  
たり阻害されたりするということを概念的に理解し、  
生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるよ  
うにする。

①単元の目標と  
「探究のテーマ」を設定する。

主な対象や活動

思考力、判断力、表現力等

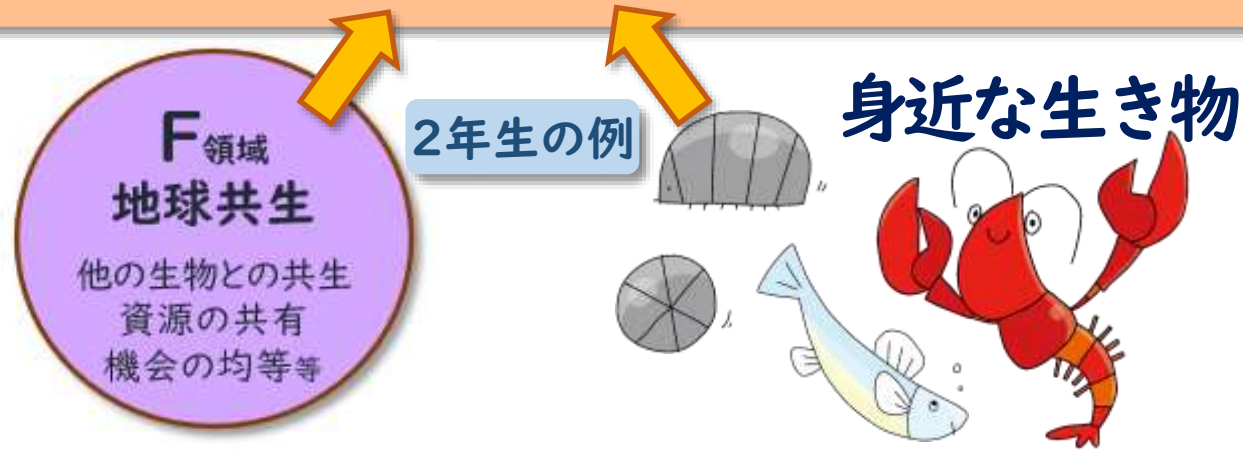
知識及び技能

学びに向かう力、人間性等



# 1. (4) 「探究科」単元の実例 ①単元の構想

## 【探究のテーマ】



同時に、領域で扱う概念と児童が会う対象から、「探究のテーマ」を設定します。

①単元の目標と「探究のテーマ」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。



## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる



2年生の例



同時に、領域で扱う概念と  
児童が会う対象から、  
「探究のテーマ」を設定します。

①単元の目標と  
「探究のテーマ」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

### 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

★「探究のテーマ」とは、

・その単元で**理解させたい概念を表現した文言**です。

## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

### 【探究のテーマ】

# 人は生き物の生存に影響をあたえる

★「探究のテーマ」とは、

- ・その単元で**理解させたい概念を表現した文言**です。
- ・児童は、単元の学習中に、「人は生き物の生存に影響を与える」とは、**いったいどのようなことだろう?**と考えます。

## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

### 【探究のテーマ】

# 人は生き物の生存に影響をあたえる

### ★「探究のテーマ」とは、

- ・その単元で**理解させたい概念を表現した文言**です。
- ・児童は、単元の学習中に、「人は生き物の生存に影響を与える」とは、**いったいどのようなことだろう?**と考えます。
- ・この「探究のテーマ」があることで、児童は、その文言の意味を自分なりに解釈しながら、**汎用的に活用できる概念を形成**することができます。

「生き物のことをよく調べて、知ることができれば、生き物を増やしていける。」ってことかなあ。

「人が自然を壊していくと、生き物も死んでいく。」ということだよ。

「人が増やした生き物のせいで、他の生き物が居なくなること。」かも…。



## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

次に、見取りたい児童の姿を設定していきます。

①単元の目標と「探究のテーマ」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

【見取りたい児童の姿】

次に、見取りたい児童の姿を設定していきます。

①単元の目標と「探究のテーマ」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。



# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

原因

なぜそうなの？

責任

どのような責任がある？

次に、見取りたい児童の姿を設定していきます。

どのような姿をもってして、「この目標にそって学んだ!」とするのかを、明らかにします。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

3つ程度の姿を、「対象を捉える考え方」を使って設定していきます。

このような手順で構想することが多いです。



# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

選んだ生き物の特徴や飼育方法、繁殖の方法を体験的に理解している姿

原因

なぜそうなの？

責任

どのような責任がある？

次に、見取りたい児童の姿を設定していきます。

どのような姿をもってして、「この目標にそって学んだ!」とするのかを、明らかにします。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

3つ程度の姿を、「対象を捉える考え方」を使って設定していきます。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4)「探究科」単元の実際 ①単元の構想

【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

選んだ生き物の特徴や飼育方法、繁殖の方法を体験的に理解している姿

原因

なぜそうなの？

生き物をうまく飼育できない原因を考え、成功させようと工夫している姿

責任

どのような責任がある？

次に、見取りたい児童の姿を設定していきます。

どのような姿をもってして、「この目標にそって学んだ!」とするのかを、明らかにします。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

3つ程度の姿を、「対象を捉える考え方」を使って設定していきます。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

## 【見取りたい児童の姿】

### 特徴

どのようなもの？

選んだ生き物の特徴や飼育方法、繁殖の方法を体験的に理解している姿

### 原因

なぜそうなの？

生き物をうまく飼育できない原因を考え、成功させようと工夫している姿

### 責任

どのような責任がある？

生き物が生存、繁殖していくために必要な人の行動を考え、実行している姿

次に、見取りたい児童の姿を設定していきます。

どのような姿をもってして、「この目標にそって学んだ!」とするのかを、明らかにします。

①「見取りたい児童の姿」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

3つ程度の姿を、「対象を捉える考え方」を使って設定していきます。

このような手順で構想することが多いです。



## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

### 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

### 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

### 【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

原因

なぜそうなの？

責任

どのような責任がある？

このように、育成する資質・能力や見取りたい姿が明確になり、単元の大枠が決まったら、学習活動を考えます。

①単元の目標と「探究のテーマ」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

## 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

## 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

## 【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

原因

なぜそうなの？

責任

どのような責任がある？

## 【具体的な学習活動】

このように、育成する資質・能力や見取りたい姿が明確になり、単元の大枠が決まったら、学習活動を考えます。

## ①単元の目標と

学習活動から構想するのではなく、育成する資質・能力を明確にした上で、どのような学習活動が適しているかを考えます。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

## 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

## 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

## 【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

原因

なぜそうなの？

責任

どのような責任がある？

## 【具体的な学習活動】

生き物の飼育繁殖方法を調べる活動

このように、育成する資質・能力や見取りたい姿が明確になり、単元の大枠が決まったら、学習活動を考えます。

## ①単元の目標と

学習活動から構想するのではなく、育成する資質・能力を明確にした上で、どのような学習活動が適しているかを考えます。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

## 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

## 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

## 【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

原因

なぜそうなの？

責任

どのような責任がある？

## 【具体的な学習活動】

生き物の飼育繁殖方法を調べる活動

一人一人が自分の責任で一つの生き物を飼育する活動

このように、育成する資質・能力や見取りたい姿が明確になり、単元の大枠が決まったら、学習活動を考えます。

## ①単元の目標と

学習活動から構想するのではなく、育成する資質・能力を明確にした上で、どのような学習活動が適しているかを考えます。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。



# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

## 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

## 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

## 【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

原因

なぜそうなの？

責任

どのような責任がある？

## 【具体的な学習活動】

生き物の飼育繁殖方法を調べる活動

一人一人が自分の責任で一つの生き物を飼育する活動

飼育している生き物の様子を観察、記録する活動

このように、育成する資質・能力や見取りたい姿が明確になり、単元の大枠が決まったら、学習活動を考えます。

## ①単元の目標と

学習活動から構想するのではなく、育成する資質・能力を明確にした上で、どのような学習活動が適しているかを考えます。

## ③学習活動を計画する。

## ④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

## 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

## 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

## 【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

原因

なぜそうなの？

責任

どのような責任がある？

## 【具体的な学習活動】

生き物の飼育繁殖方法を調べる活動

一人一人が自分の責任で一つの生き物を飼育する活動

飼育している生き物の様子を観察、記録する活動

このまま飼育を続けるべきなのかについて話し合う活動

このように、育成する資質・能力や見取りたい姿が明確になり、単元の大枠が決まったら、学習活動を考えます。

## ①単元の目標と

学習活動から構想するのではなく、育成する資質・能力を明確にした上で、どのような学習活動が適しているかを考えます。

## ③学習活動を計画する。

## ④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

## 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

### 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするということを概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

### 【具体的な学習活動】

生き物の飼育繁殖方法を調べる活動

一人一人が自分の責任で一つの生き物を飼育する活動

飼育している生き物の様子を観察、記録する活動

このまま飼育を続けるべきなのかについて話し合う活動

### 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

### 【見取りたい児童の姿】

特徴

どのようなもの？

原因

なぜそうなの？

責任

どのような責任がある？

最後に、  
児童に示す学習課題を設定します。

①単元の目標と  
「探究のテーマ」を設定する。

②見取りたい姿を設定する。

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。



# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

## 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするという概念を概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

## 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

## 【見取りたい児童の姿】

### 特徴

どのようなもの？

### 原因

なぜそうなの？

### 責任

どのような責任がある？

## 【具体的な学習活動】

生き物の飼育繁殖方法を調べる活動

一人一人が自分の責任で一つの生き物を飼育する活動

飼育している生き物の様子を観察、記録する活動

このまま飼育を続けるべきなのかについて話し合う活動

## 【児童に示す学習課題】

最後に、  
児童に示す学習課題を設定します。

これまでに獲得した知識やスキル、育まれた資質・能力を  
発揮することが求められる課題を、  
学習課題として設定します。  
→【パフォーマンス課題】

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

## 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするという概念を概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

## 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

## 【見取りたい児童の姿】

### 特徴

どのようなもの？

### 原因

なぜそうなの？

### 責任

どのような責任がある？

## 【具体的な学習活動】

生き物の飼育繁殖方法を調べる活動

一人一人が自分の責任で一つの生き物を飼育する活動

飼育している生き物の様子を観察、記録する活動

このまま飼育を続けるべきなのかについて話し合う活動

## 【児童に示す学習課題】

「人が生き物を飼育する時に、どのようなことが大切になるのか」について、自分の意見をポスターにかき、スピーチをして発表しましょう。

最後に、  
児童に示す学習課題を設定します。

これまでに獲得した知識やスキル、育まれた資質・能力を  
発揮することが求められる課題を、  
学習課題として設定します。  
→【パフォーマンス課題】

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

# 1. (4) 「探究科」単元の実際 ①単元の構想

## 【単元の目標】

身近な生き物の飼育や繁殖させる活動を通して、生き物の特徴や上手く飼育できない原因、人の果たす責任といった捉え方で考え、生き物の生存や繁殖は、人間の工夫によって促進されたり阻害されたりするという概念を概念的に理解し、生き物の生存に思慮深く関わっていくことができるようにする。

## 【探究のテーマ】

人は生き物の生存に影響をあたえる

## 【見取りたい児童の姿】

### 特徴

どのようなもの？

### 原因

なぜそうなの？

### 責任

どのような責任がある？

## 【具体的な学習活動】

生き物の飼育繁殖方法を調べる活動

一人一人が自分の責任で一つの生き物を飼育する活動

飼育している生き物の様子を観察、記録する活動

このまま飼育を続けるべきなのかについて話し合う活動

## 【児童に示す学習課題】

「人が生き物を飼育する時に、どのようなことが大切になるのか」について、自分の意見をポスターにかき、スピーチをして発表しましょう。

## 【パフォーマンス課題のスタイル】

### プロジェクト型

地域貢献活動  
イベント開催等

### プレゼン型

ポスターセッション  
発表会等

### 作品制作型

パンフレット  
展示物等

### コンテスト応募型

コンテスト応募  
コンクール参加  
等

最後に、  
児童に示す学習課題を設定します。

これまでに獲得した知識やスキル、育まれた資質・能力を  
発揮することが求められる課題を、  
学習課題として設定します。  
→【パフォーマンス課題】

③学習活動を計画する。

④学習課題を設定する。

このような手順で構想することが多いです。

令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

## 1. 探究科の実際

- (1) 「探究科」創設の理由
- (2) 「探究科」で育成する資質・能力
- (3) 「探究科」カリキュラムの構成
  - ①年間計画
  - ②時数
- (4) 「探究科」単元の実際
  - ①単元の構想
  - ②単元の展開

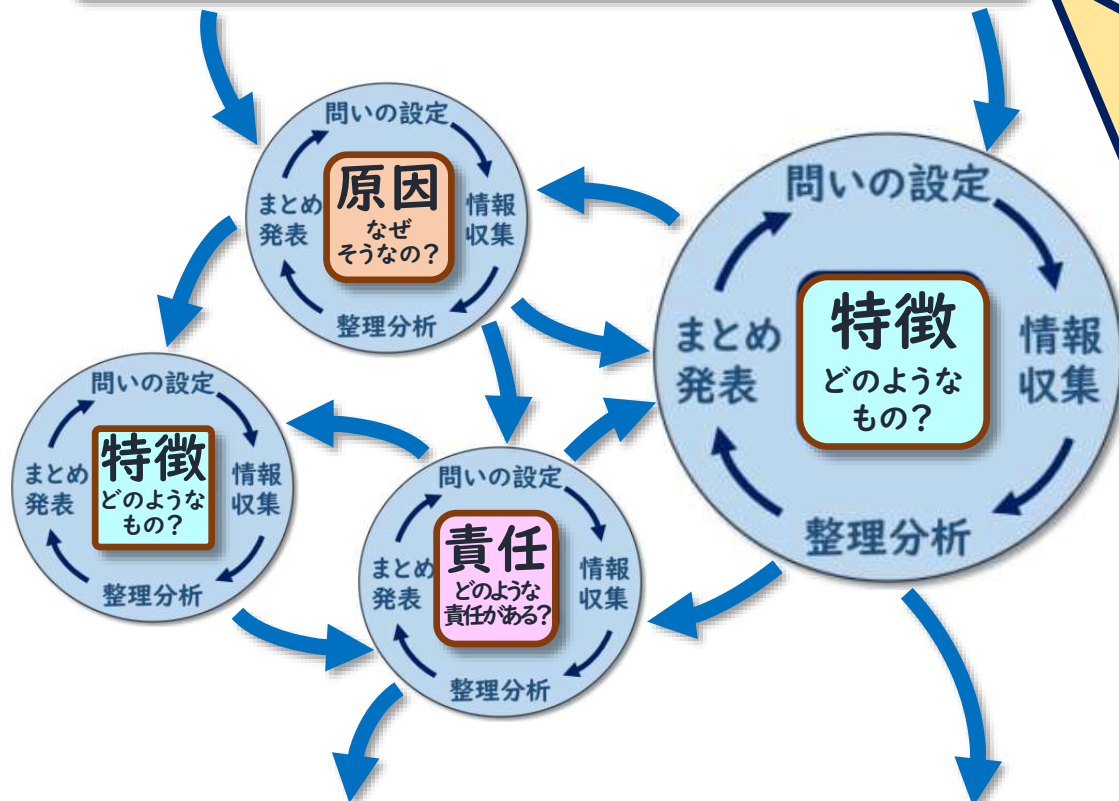
## 2. 研究開発の成果と課題

- (1) 資質・能力の育成について
- (2) 探究科カリキュラムの評価



# 単元の展開

導入「探究のテーマ」との出会い



【学習課題】

「人が生き物を飼育する時に、どのようなことが大切になるのか」について発表する。

★児童は、「探究のテーマ」を自分なりに解釈し、そこから問いを設定し、追究活動を始めます。

「探究のテーマ」  
人は生き物の生存に影響をあたえる



【特徴】

身の周りには、どんな  
生き物がいるのかな？

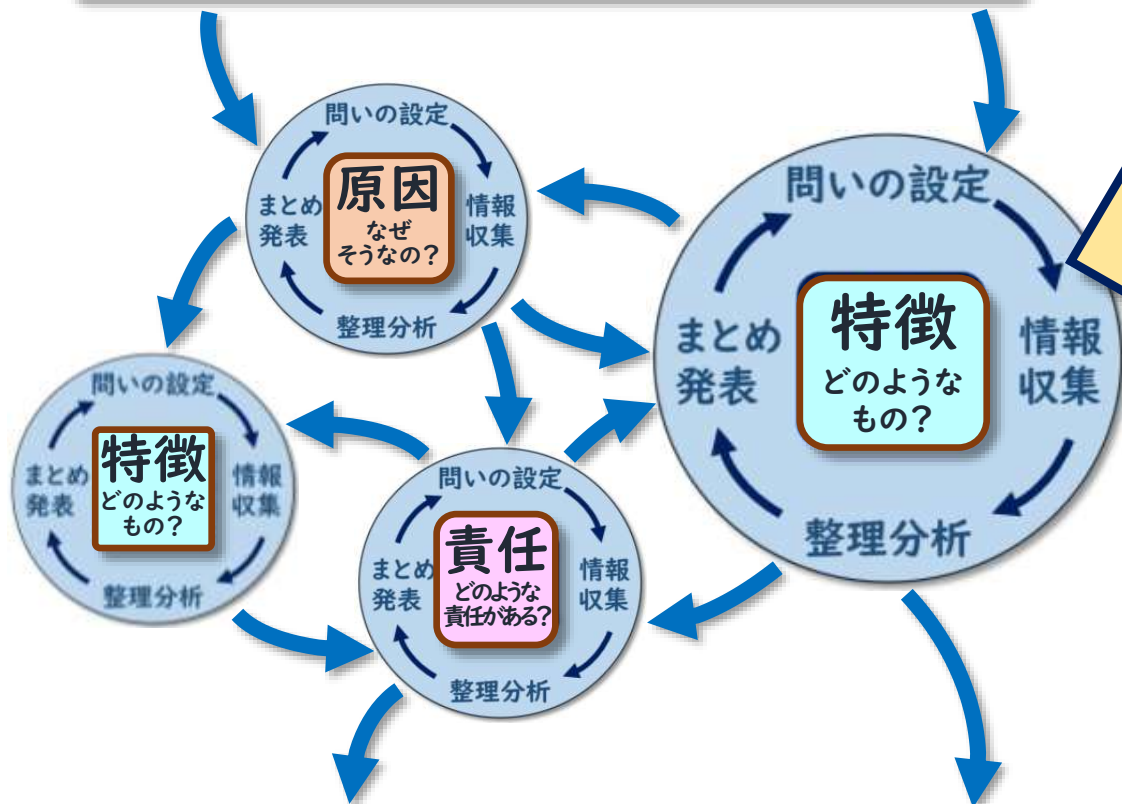
【原因】学校で捕まえたバッタが  
死んじゃったのなぜだろう？  
人間のせいなのかな？



その際、児童は「対象を捉える考え方」を活用します。

# 単元の展開

導入「探究のテーマ」との出会い



**【学習課題】**  
「人が生き物を飼育する時に、どのようなことが大切になるのか」について発表する。

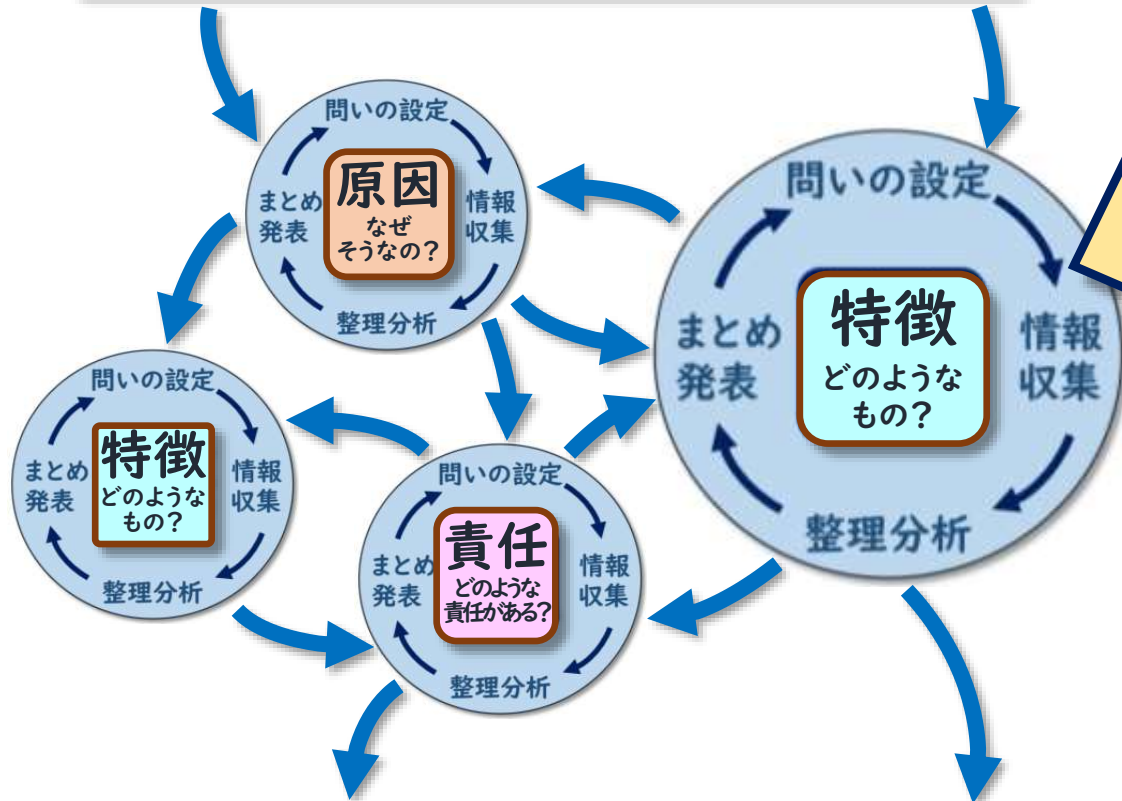
「Line」や「小課題」と呼ばれる主な学習活動を、児童が自由に選択して取り組んだり、学級全体で同時に取り組んだりします。

Illustration of children discussing various questions about animal care:

- 【特徴】** どのような生き物?
- 【特徴】** どのエサが好き?
- 【責任】** 水替えをしないと死んじゃう?
- 【原因】** なぜ卵を産まない?
- 【責任】** 飼育しない方が元気か?
- 【原因】** なぜ死んでしまう?

# 単元の展開

導入「探究のテーマ」との出会い



## 【学習課題】

「人が生き物を飼育する時に、どのようなことが大切になるのか」について発表する。

## 2年生 F領域 「生き物を命をふやそう」

★自己評価シートを活用して、児童と教師が、共に学習を調整していきます。

児童による観点別の自己評価

教師からの評価と指導助言

比べて考えるには、どうしたらいいかなあ。

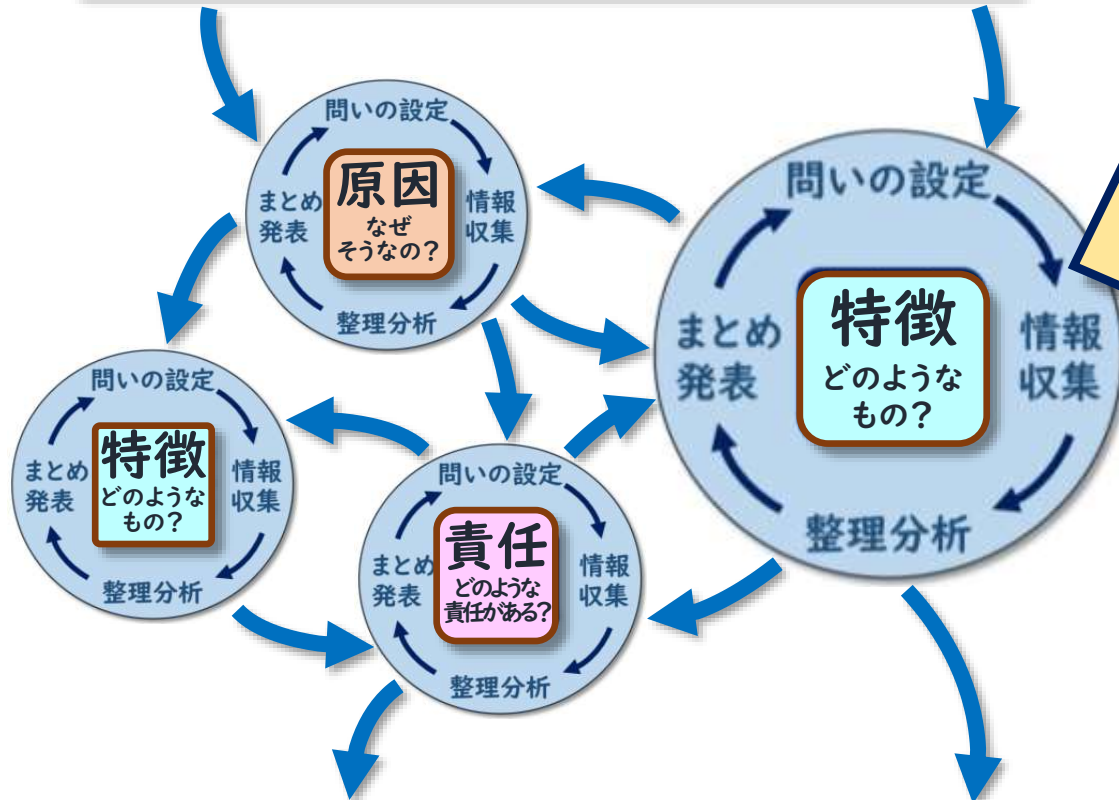


ひとつのエサだけでなく、他のエサと比べてみるといいかもね!



# 単元の展開

導入「探究のテーマ」との出会い



【学習課題】  
「人が生き物を飼育する時に、どのようなことが大切になるのか」について発表する。

★様々な追究活動を体験的に重ねていく中で、児童は、

・対象となる、人、自然、社会の関わりについて、概念的に理解をしていきます。

アメリカザリガニが増えたら、池がこんなに汚れてしまう！  
どうしよう！

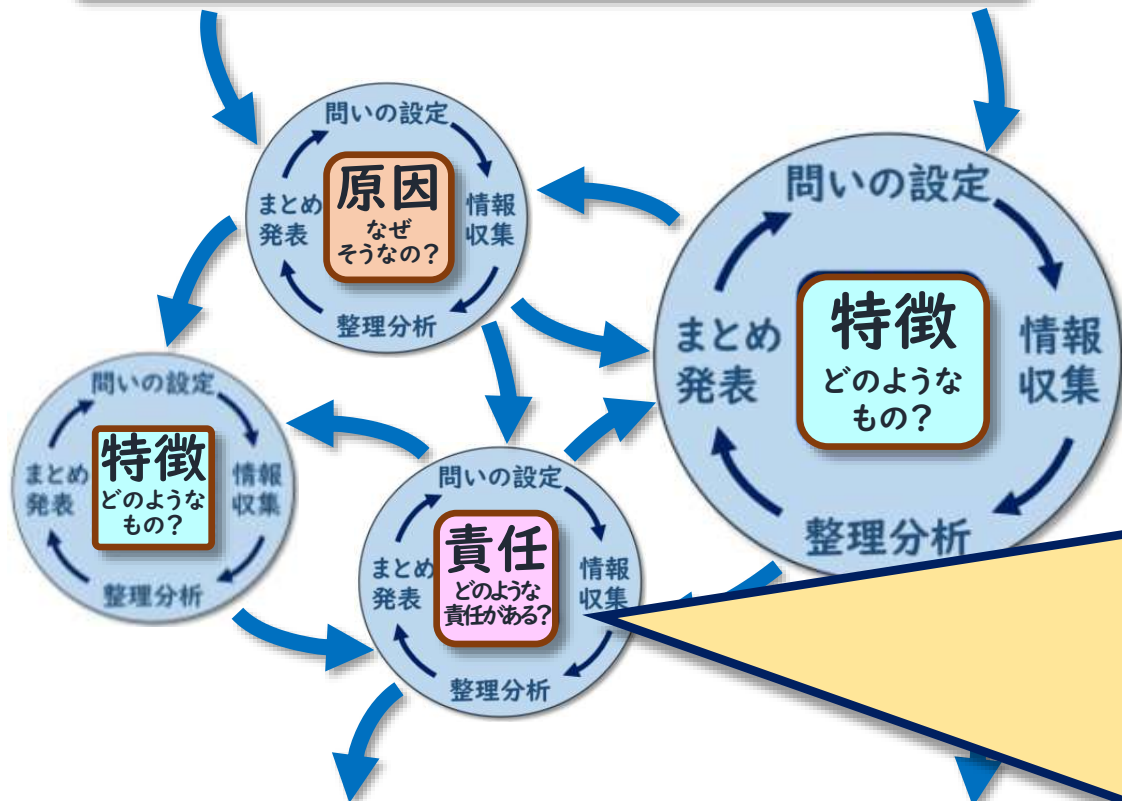


・探究の過程を経由して、「対象を捉える考え方」を使った思考力等を伸ばしていきます。

・自身の学習をコントロールし、他者と関わりながら学ぶ経験を積み重ねていきます。

# 単元の展開

導入「探究のテーマ」との出会い



## 【学習課題】

「人が生き物を飼育する時に、どのようなことが大切になるのか」について発表する。

- ★そして、
- ・自己の価値観を創造し、



やっぱり、人が生き物を飼うってことは……

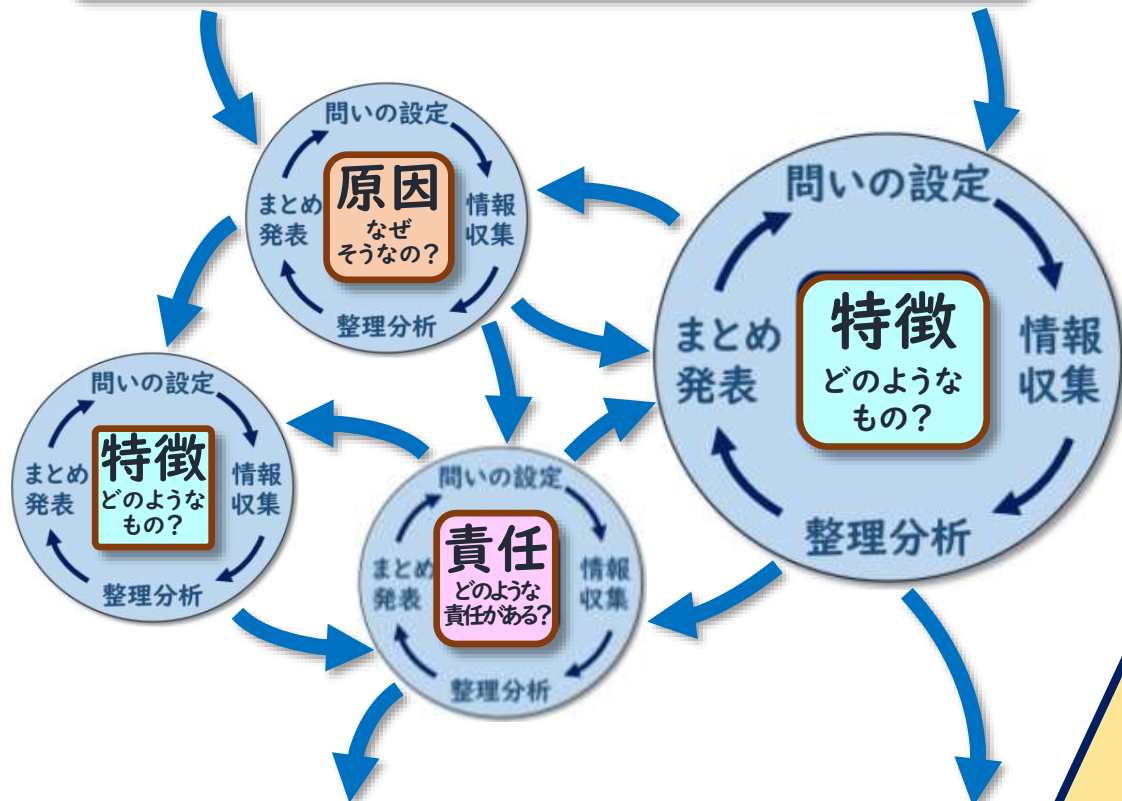
- ・未来に向けて自身の生き方を考えます。

これから生き物を飼う時には……



# 単元の展開

導入「探究のテーマ」との出会い



## 【学習課題】

「人が生き物を飼育する時に、どのようなことが大切になるのか」について発表する。

「探究のテーマ」  
人は生き物の生存に影響をあたえる

★「大切だと思ったこと」について発表する。

生き物のことをよく知らないと、  
悪い影響をあたえてしまう。  
もっと生き物のことを知りたい。



飼育しても、全部死んでしまった。  
生き物は、自然のままがいいはず。  
人は、自然の環境を守ることだけ  
がんばる方がいい。

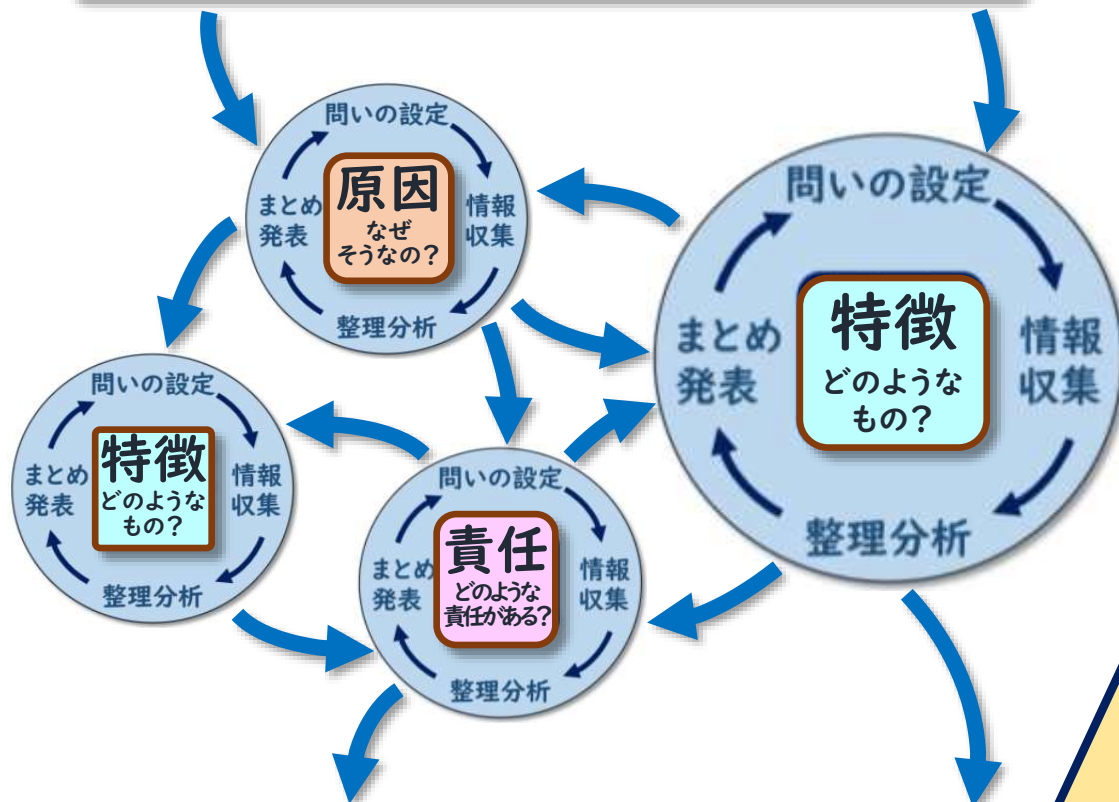
育てた〇〇が卵を産んだ。  
人間が世話をして生まれる命  
もある。いい影響を与えたい。





# 単元の展開

導入「探究のテーマ」との出会い



【学習課題】

「人が生き物を飼育する時に、どのようなことが大切になるのか」について発表する。

「探究のテーマ」

人は生き物の生存に影響をあたえる

「探究のテーマ」を使うことで、  
児童は、

- ・多様な取り組みが可能な探究の範囲を掴み、
- ・自身で探究を計画、実行し、
- ・自覚的に概念を形成し、
- ・自分なりの価値観を構築していくことができます。





令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

## 1. 探究科の実際

- (1) 「探究科」創設の理由
- (2) 「探究科」で育成する資質・能力
- (3) 「探究科」カリキュラムの構成
  - ①年間計画
  - ②時数
- (4) 「探究科」単元の実際
  - ①単元の構想
  - ②単元の展開

## 2. 研究開発の成果と課題

- (1) 資質・能力の育成について
- (2) 探究科カリキュラムの評価

## 2. 研究の成果と課題 (1) 資質・能力の育成について

# 教育課程や指導方法の内容が適切であった点

## 教育課程の内容が適切であった点

### 6つの領域

- 偏りのない対象
- 系統性
- 教科の枠をこえる



### 年間200時間の授業時数

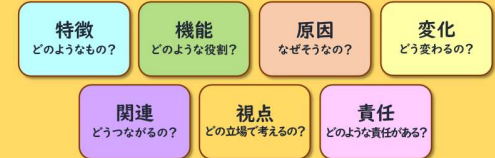
- 1単元30~40時間
- 児童の意欲、感心の持続に適切



## 指導方法の内容が適切であった点

### 7つの「対象を捉える考え方」

- 児童が進んで活用する姿
- 児童による探究活動の展開



### 「探究のテーマ」の活用

- 児童の主体性を損なわずに探究の範囲を設定
- 自分なりの解を見出す姿

## 教育課程や指導方法の内容が適切でなかった点

### 教育課程の内容が適切でなかった点

年間約200時間の授業時数

- ・個別の活動を重視すると、時間数が不足することもある。



### 指導方法の内容が適切でなかった点

## 教育課程や指導方法の内容が適切でなかった点

### 教育課程の内容が適切でなかった点

年間約200時間の授業時数

- 個別の活動を重視すると、時間数が不足することもある。



### 指導方法の内容が適切でなかった点

7つの「対象を捉える考え方」

「探究のテーマ」の活用



適切でないとはいえないが、この後述べるような**今後の課題**が見えてきた。

## 2. 研究の成果と課題 (1) 資質・能力の育成について

### 教育課程の今後の課題

「探究科」だけでなく  
学校の教育課程全体からの  
カリキュラムの見直し

概念的な理解をしている  
具体的な姿の共有と見取り

### 指導方法の今後の課題

7つの「対象を捉える考え方」  
年間計画にバランス  
よく配置 → 再調整

「探究のテーマ」の活用  
効果的な文言の  
作成が難しい

より主体的な  
自己評価活動

令和3年度 東京学芸大学附属大泉小学校 研究発表会

文部科学省研究開発学校指定 第4・5年次

# 新教科「探究科」の創設

～教科の枠をこえる学習の充実～

## 1. 探究科の実際

- (1) 「探究科」創設の理由
- (2) 「探究科」で育成する資質・能力
- (3) 「探究科」カリキュラムの構成
  - ①年間計画
  - ②時数
- (4) 「探究科」単元の実際
  - ①単元の構想
  - ②単元の展開

## 2. 研究開発の成果と課題

- (1) 資質・能力の育成について
- (2) 探究科カリキュラムの評価



# 毎週の「探究科学年会」でのリフレクション

単元の計画



「探究科」では、  
単元を計画して実施するだけでなく、

単元の実施

# 毎週の「探究科学年会」でのリフレクション



「探究科」では、  
単元を計画して実施するだけでなく、  
実施の状況を振り返り、  
成果の具体や改善点を次週や次単元、次年度に反映するための  
リフレクションの機会を大切にしています。

単元の計画

単元の実施

リフレクション



# 毎週の「探究科学年会」でのリフレクション



# 毎週の「探究科学年会」でのリフレクション

毎週1時間の「探究科学年会」の実施の成果

- ・探究科単元の改善
- ・教師の授業力の向上
- ・教師の探究科についての理解の浸透
- ・探究科カリキュラムの成果の確認 等



リフレクション

# 毎週の「探究科学年会」でのリフレクション

毎週1時間の「探究科学年会」の実施の成果

- ・「探究科」の授業作りを通じた同僚性の構築



リフレクション

# 総合的な学習の時間

## これから求められる学習

既存の学問体系の文脈で学ぶ教科の学習だけでなく、  
「総合的な学習の時間」のような「教科の枠をこえて探究的に学ぶ学習」は、  
これから求められる学習として、ますます重要になる。





# 総合的な学習の時間

学校裁量が故の戸惑い



# 総合的な学習の時間

学校裁量が故の戸惑い

ある程度共通に取り組めるために…

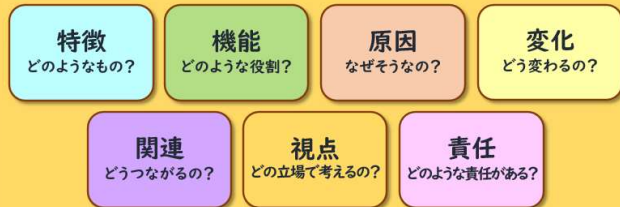
教科の枠を超えた

## 6つの領域



教科の枠を超えた

## 対象を捉える考え方



これらを定めて、  
学習単元を構成するよさもある。



# 総合的な学習の時間

学校裁量が故の戸惑い

個の活動を設定する難しさ

ある程度共通に取り組めるために…

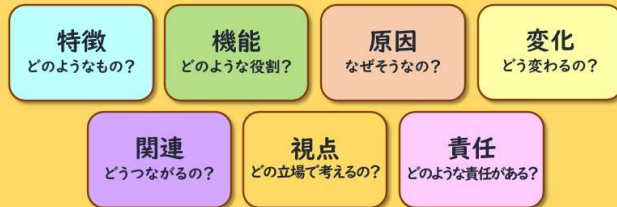
教科の枠を超えた

6つの領域



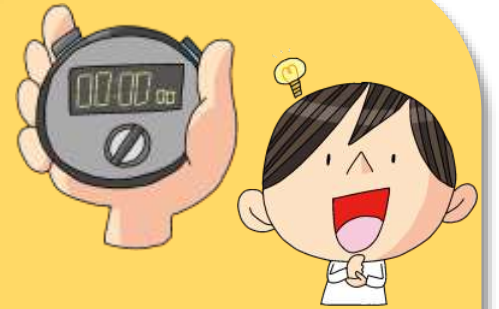
教科の枠を超えた

対象を捉える考え方



これらを定めて、  
学習単元を構成するよさもある。

・十分な時間数



・「探究のテーマ」を活用

個の活動の充実



# 総合的な学習の時間

学校裁量が故の戸惑い

個の活動を設定する難しさ

ある程度共通に取り組めるために…

教科の枠を超えた

6つの領域



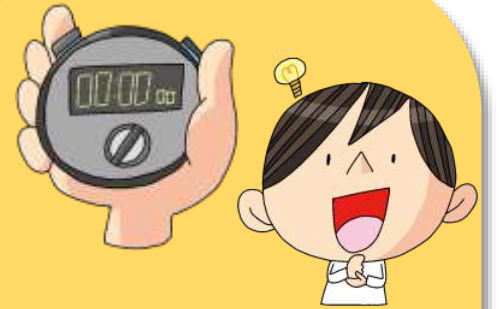
教科の枠を超えた

対象を捉える考え方



これらを定めて、  
学習単元を構成するよさもある。

・十分な時間数



・「探究のテーマ」を活用

個の活動の充実

児童一人一人が自分の文脈で探究  
→汎用的に活用できる概念の形成



**これからの時代に求められる資質・能力の向上を、  
「探究科」によってより充実させることが  
できると考えています。**

**みなさんのご意見を、ぜひお聞かせください。**

